



<感染症管理センター>

概要

感染症管理センターは地域における感染症の発生を捉え、感染症診療の補助的役割を担う部署である。感染症発生時は行政機関へ迅速に届出るなど感染症の蔓延防止に寄与することが目的となる。同時に、院内感染対策委員会や ICT (Infection Control Team) に対して様々な情報を提供している。私たち医療従事者が適切な院内感染防止対策が行えているかを監視する“院内感染サーベイランス”も重要な業務である。近年、病院内だけでなく近隣の医療機関の間で発生する医療関連感染が問題となっている。患者は症状に応じ、急性期病院、回復期病院、介護施設などを経る。院内感染防止対策は複数の施設が集まって取り組む必要が生じてきた。当センターは医療関連感染の拡大防止活動も積極的に行っていかなければならない。

2011 年 4 月から、感染症発生動向調査のための届出業務を感染症管理センターが一手に引き受けた。「感染症の予防及び感染症の患者に対する法律(感染症法)」では週報・月報、あるいは診断後直ちに(または 7 日以内)に行政(管轄の保健所)に届出なければならない。この業務が可能となった経緯は電子カルテとリンクした感染管理支援システム(BACT Web)の導入によるところが大きい。届出精度が高まったことに加え、現場スタッフによる積算業務を廃止することに繋がり、業務改善に貢献したと自負している。これにより、「麻しん・風しん全数報告」、「インフルエンザワクチン副反応報告」、「インフルエンザ入院サーベイランス」など新たに加わった行政事業にも積極的に関わることができた。

次に職員健康外来の開設である。内科外来で毎月第 2 第、4 火曜日に受診枠を設け、血液媒介感染症や結核患者に曝露した職員などのフォローアップ診療を行った。約 70 名が受診し、延べ 100 日以上診療を数えた。曝露状況によりワクチン防御や予防内服治療に至った職員も存在した。曝露直後は感染症管理センター・スタッフ、あるいは管理当直医師などが緊急対応した。緊急対応窓口の連絡経路を救急外来受付に依頼したことにより受診態勢の統一も図ることができた。加えて、豊橋市保健所の職員もこの緊急受診態勢に入ることができるようになった。本年の診療対象者において感染者が発生しなかったことは幸いである。

本年はマイコプラズマ肺炎とインフルエンザが例年と比較して大流行した。外来受診者数の増加もさることながら入院症例も多く、院内感染拡大を懸念する事態であった。院内感染対策委員会等の指示で啓発ポスターの掲示や面会制限(原則 1 名でマスク着用の励行)等を対策として行った。入院患者への拡大を最小限にとどめることができたため対策を評価している。また、デング熱、レジオネラ症、ライム病など希な疾患に対する診療コンサルテーションも少なからず受けることができた。

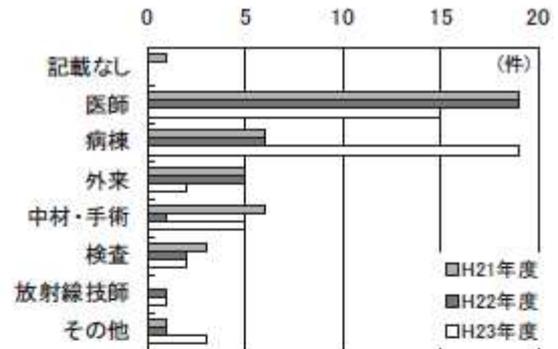
EPI-Net集計報告

1) 針刺し・切創 (EpsysA)

①部門 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	1	0	0
医師	19	19	15
病棟	6	6	19
外来	5	5	2
中材・手術	6	1	5
検査	3	2	2
放射線技師	0	1	1
その他	1	1	3
計	41	35	47

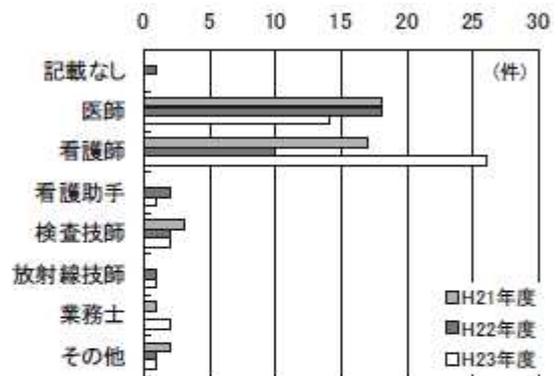
①部門



②職種 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	0
医師	18	18	14
看護師	17	10	26
看護助手	0	2	1
検査技師	3	2	2
放射線技師	0	1	1
業務士	1	0	2
その他	2	1	1
計	41	35	47

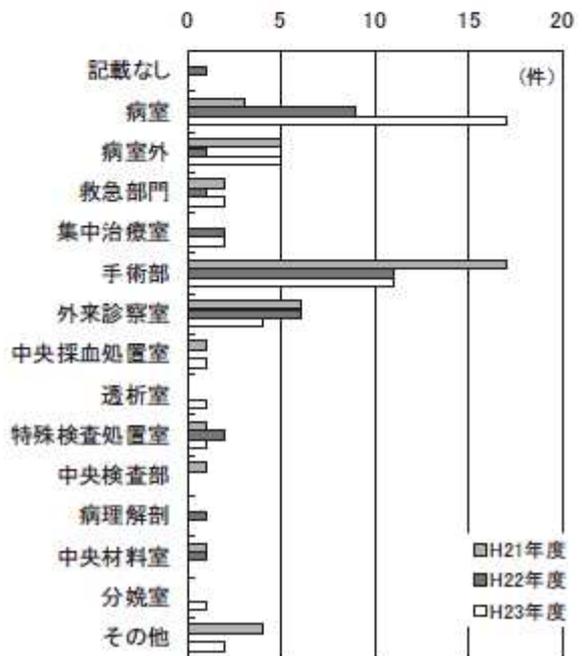
②職種



③発生場所 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	0
病室	3	9	17
病室外	5	1	5
救急部門	2	1	2
集中治療室	0	2	2
手術部	17	11	11
外来診察室	6	6	4
中央採血処置室	1	0	1
透析室	0	0	1
特殊検査処置室	1	2	1
中央検査部	1	0	0
病理解剖	0	1	0
中央材料室	1	1	0
分娩室	0	0	1
その他	4	0	2
計	41	35	47

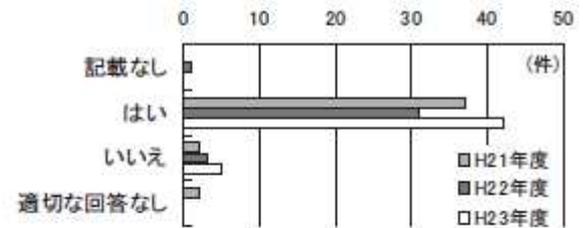
③発生場所



④患者の確定 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	0
はい	37	31	42
いいえ	2	3	5
適切な回答なし	2	0	0
計	41	35	47

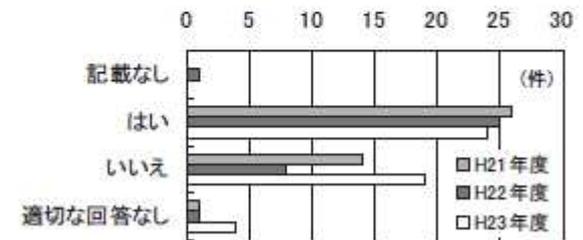
④患者の確定



⑤器材の選択・使用者 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	0
はい	26	25	24
いいえ	14	8	19
適切な回答なし	1	1	4
計	41	35	47

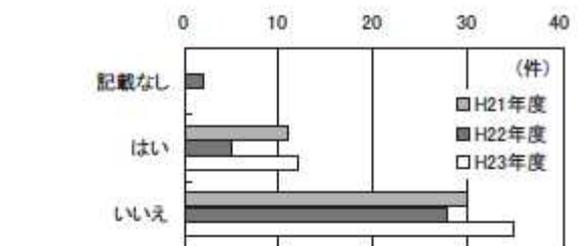
⑤器材の選択・使用者



⑥器材の所持者 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	2	0
はい	11	5	12
いいえ	30	28	35
計	41	35	47

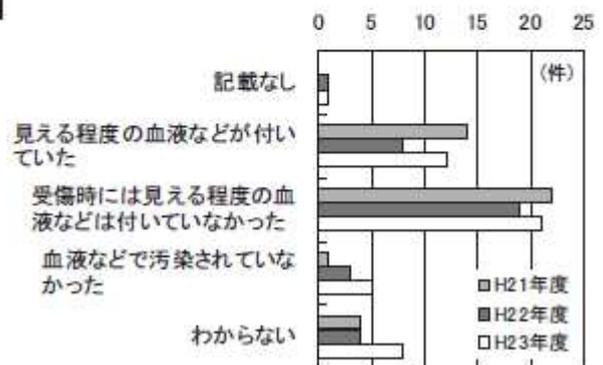
⑥器材の所持者



⑦器材の汚染 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	1
見える程度の血液などが付いていた	14	8	12
受傷時には見える程度の血液などは付いていなかった	22	19	21
血液などで汚染されていない	1	3	5
わからない	4	4	8
計	41	35	47

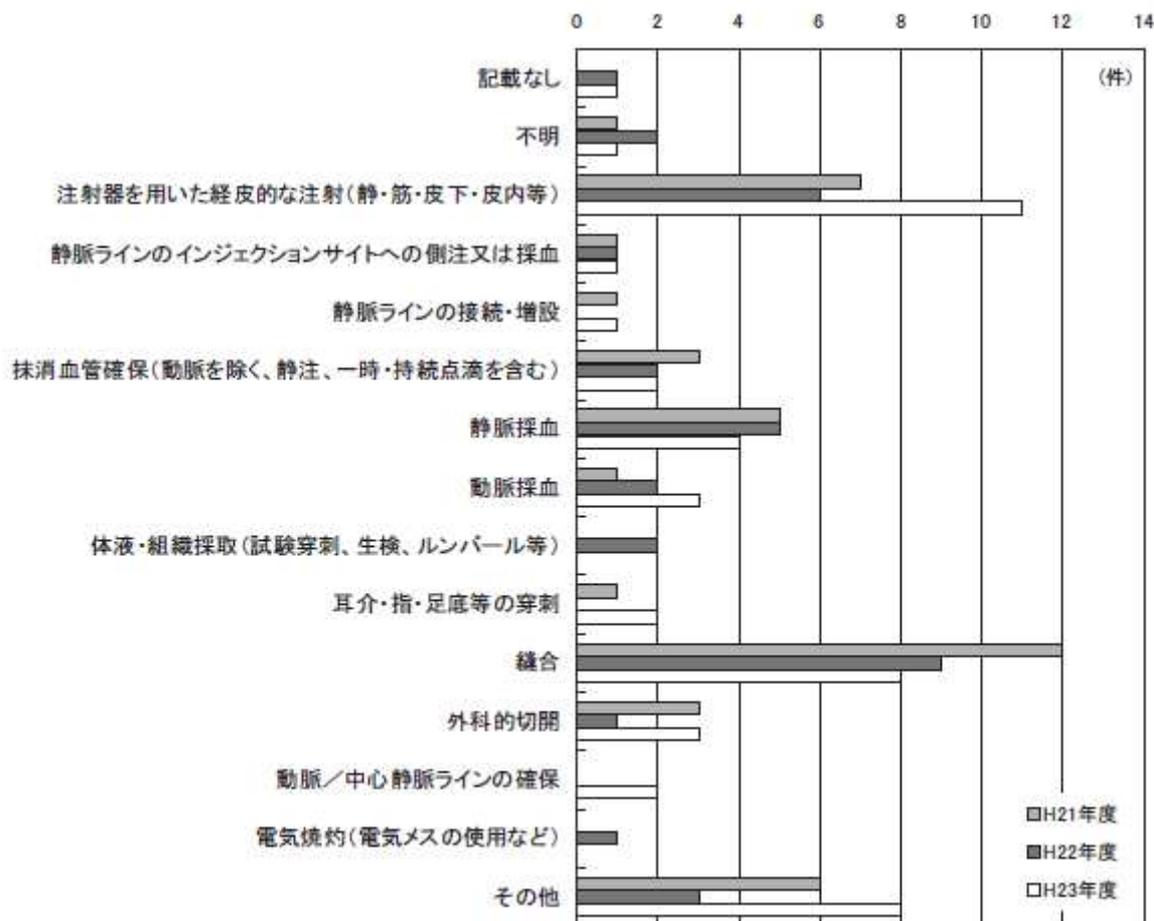
⑦器材の汚染



⑧針刺し・切創の原因行為

(件)

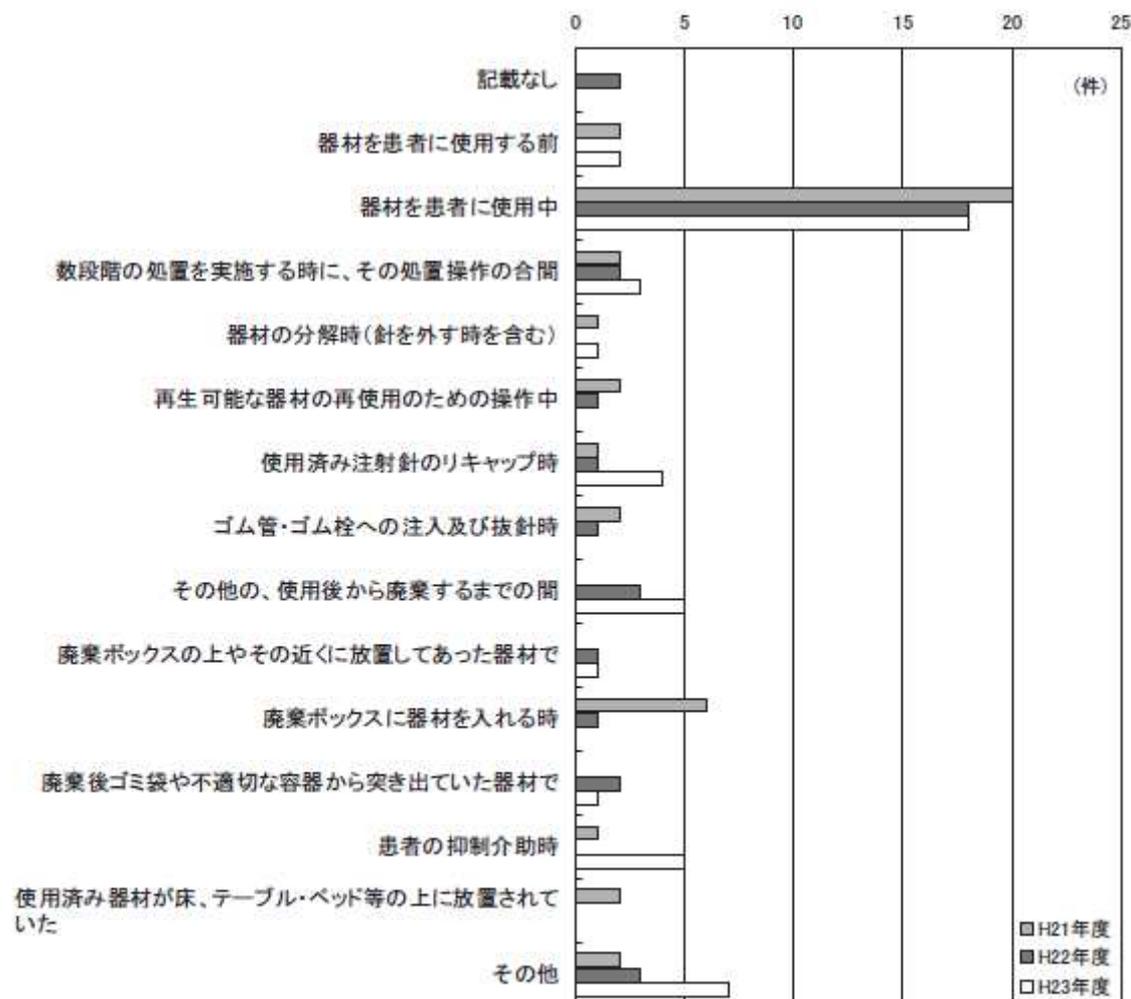
項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	1
不明	1	2	1
注射器を用いた経皮的な注射（静・筋・皮下・皮内等）	7	6	11
静脈ラインのインジェクションサイトへの側注又は採血	1	1	1
静脈ラインの接続・増設	1	0	1
抹消血管確保（動脈を除く、静注、一時・持続点滴を含む）	3	2	2
静脈採血	5	5	4
動脈採血	1	2	3
体液・組織採取（試験穿刺、生検、ルンパール等）	0	2	0
耳介・指・足底等の穿刺	1	0	2
縫合	12	9	8
外科的切開	3	1	3
動脈／中心静脈ラインの確保	0	0	2
電気焼灼（電気メスの使用など）	0	1	0
その他	6	3	8
計	41	35	47



⑨事件発生状況

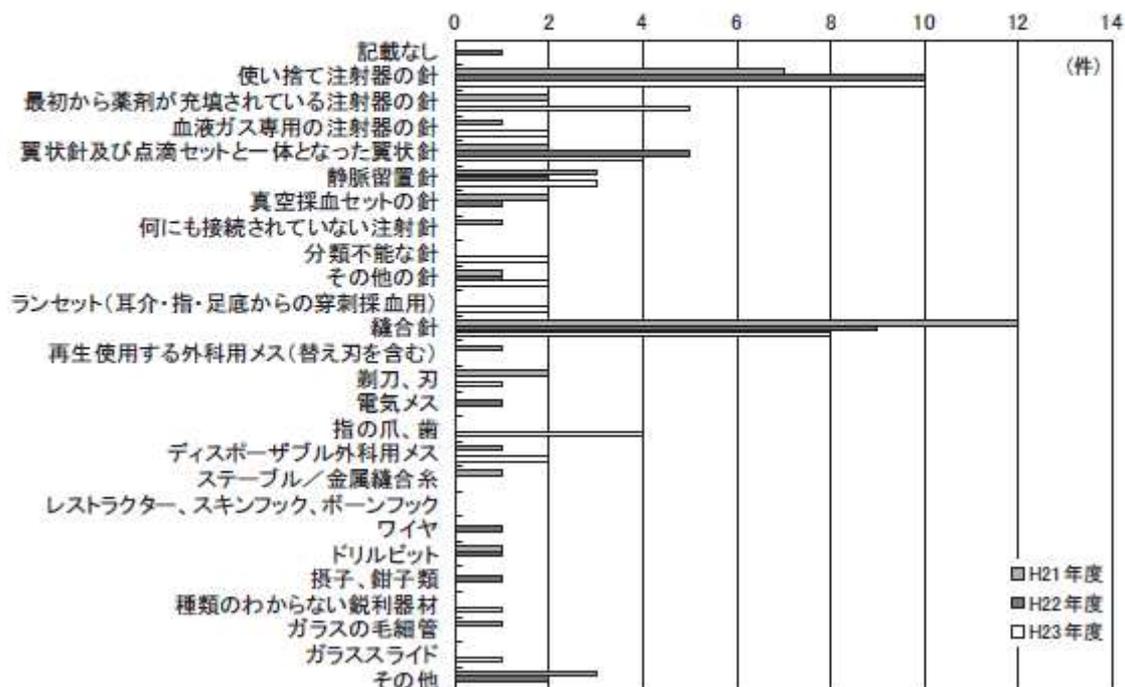
(件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	2	0
器材を患者に使用する前	2	0	2
器材を患者に使用中	20	18	18
数段階の処置を実施する時に、その処置操作の合間	2	2	3
器材の分解時（針を外す時を含む）	1	0	1
再生可能な器材の再使用のための操作中	2	1	0
使用済み注射針のリキャップ時	1	1	4
ゴム管・ゴム栓への注入及び抜針時	2	1	0
その他の、使用後から廃棄するまでの間	0	3	5
廃棄ボックスの上やその近くに放置してあった器材で	0	1	1
廃棄ボックスに器材を入れる時	6	1	0
廃棄後ゴミ袋や不適切な容器から突き出ていた器材で	0	2	1
患者の抑制介助時	1	0	5
使用済み器材が床、テーブル・ベッド等の上に放置されていた	2	0	0
その他	2	3	7
計	41	35	47



⑩原因となった器材 (件)

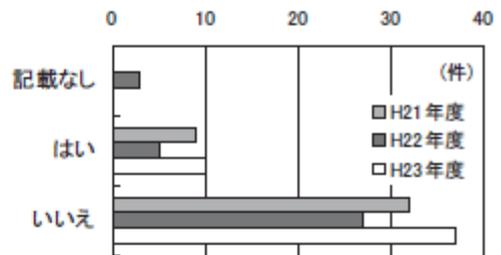
項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	0
使い捨て注射器の針	7	10	10
最初から薬剤が充填されている注射器の針	2	0	5
血液ガス専用の注射器の針	1	0	2
翼状針及び点滴セットと一体となった翼状針	2	5	4
静脈留置針	3	2	3
真空採血セットの針	2	1	0
何にも接続されていない注射針	1	0	0
分類不能な針	0	0	2
その他の針	1	1	2
ランセット (耳介・指・足底からの穿刺採血用)	0	0	2
縫合針	12	9	8
再生使用する外科用メス (替え刃を含む)	1	0	0
剃刀、刃	2	0	1
電気メス	0	1	0
指の爪、歯	0	0	4
ディスプレイザブル外科用メス	1	0	2
ステーブル/金属縫合糸	1	0	0
レストラクター、スキップック、ボーンフック	0	0	0
ワイヤ	0	1	0
ドリルビット	1	1	0
楔子、鉗子類	0	1	0
種類のわからない鋭利器材	0	0	1
ガラスの毛細管	1	0	0
ガラススライド	0	0	1
その他	3	2	0
計	41	35	47



⑪安全器材 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	3	0
はい	9	5	10
いいえ	32	27	37
計	41	35	47

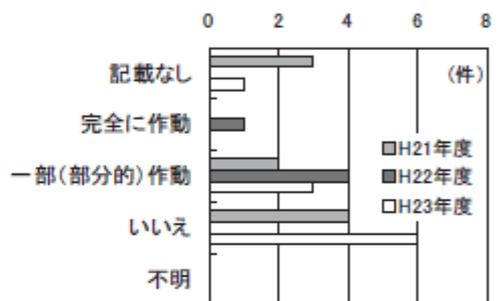
⑪安全器材



⑫安全装置作動有無 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	3	0	1
完全に作動	0	1	0
一部(部分的)作動	2	4	3
いいえ	4	0	6
不明	0	0	0
計	9	5	10

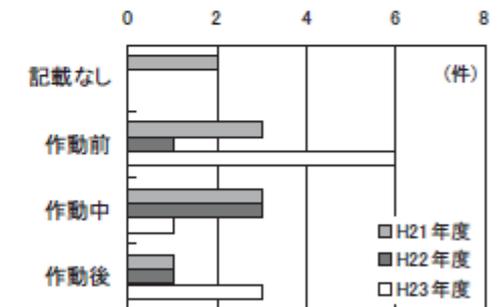
⑫安全装置作動有無



⑬受傷の時期 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	2	0	0
作動前	3	1	6
作動中	3	3	1
作動後	1	1	3
計	9	5	10

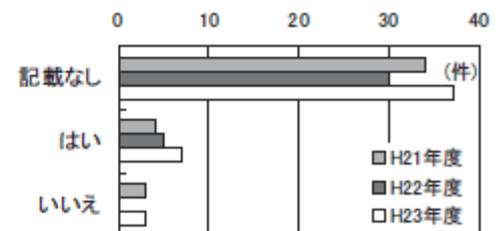
⑬受傷の時期



⑭安全機能の可否 (件)

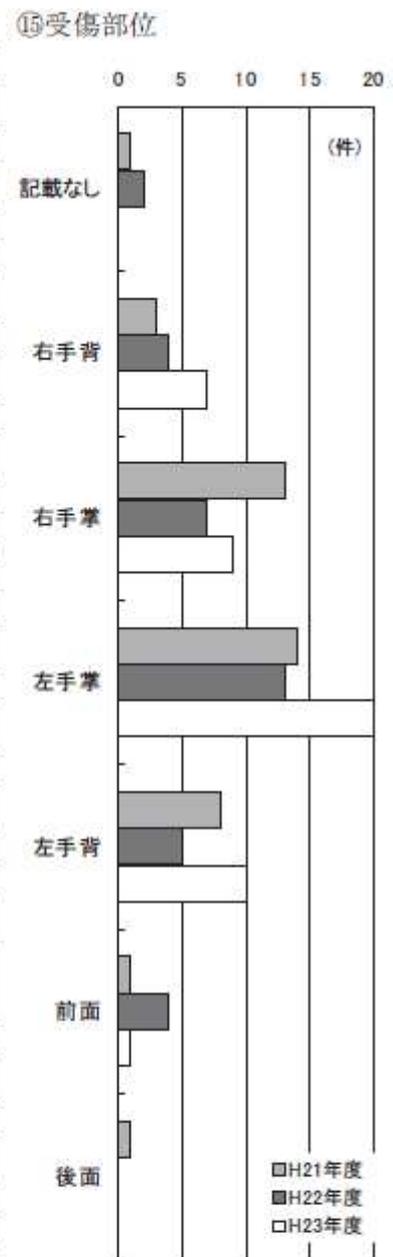
項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	34	30	37
はい	4	5	7
いいえ	3	0	3
計	41	35	47

⑭安全機能の可否



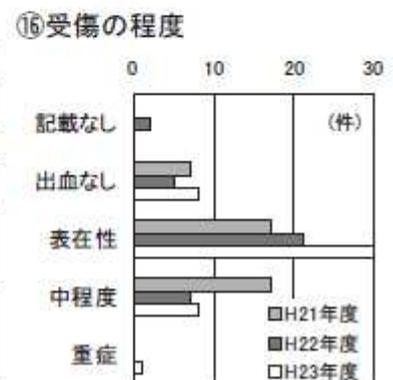
⑮受傷部位 (件)

項目名		H21年度	H22年度	H23年度
記載なし		1	2	0
右手背	第1指	1	2	0
	第2指	0	1	3
	第3指	1	0	1
	第4指	0	1	1
	第5指	1	0	0
	内側	0	0	2
右手掌	第1指	2	1	3
	第2指	5	2	1
	第3指	2	1	2
	第4指	2	0	2
	第5指	0	2	0
	外側	1	1	1
	内側	1	0	0
左手掌	第1指	3	3	10
	第2指	7	8	4
	第3指	2	0	3
	第4指	0	2	2
	第5指	0	0	1
	外側	2	0	0
左手背	第1指	4	2	3
	第2指	1	3	4
	第3指	2	0	0
	第4指	1	0	2
	内側	0	0	1
前面	右前腕	0	0	1
	左大腿部	0	1	0
	左上腕	0	1	0
	左前腕	1	2	0
後面	左下腿部	1	0	0
計		41	35	47



⑯受傷の程度 (件)

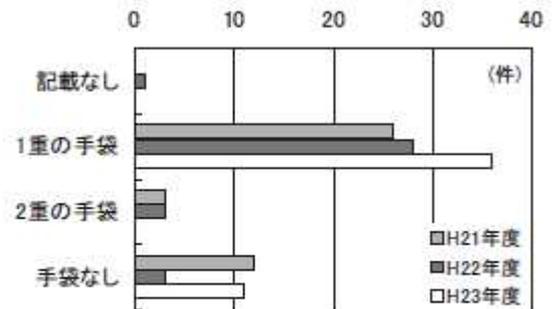
項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	2	0
出血なし	7	5	8
表在性 (少量の出血)	17	21	30
中程度 (皮膚の針刺し・切創、中等度の出血)	17	7	8
重症 (深い針刺し・切創、著しい出血)	0	0	1
計	41	35	47



⑰手袋の着用 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	1	0
1重の手袋	26	28	36
2重の手袋	3	3	0
手袋なし	12	3	11
計	41	35	47

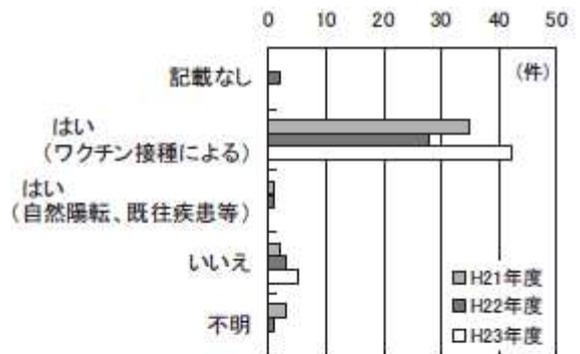
⑰手袋の着用



⑱HBs抗体 (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	2	0
はい (ワクチン接種による)	35	28	42
はい (自然陽転、既往疾患等)	1	1	0
いいえ	2	3	5
不明	3	1	0
計	41	35	47

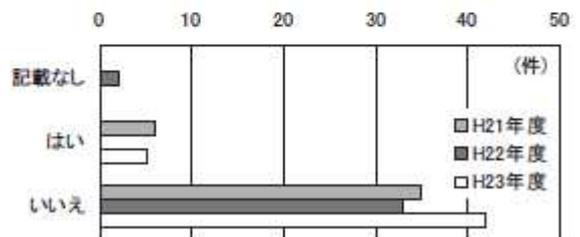
⑱HBs抗体



⑲緊急処置時 (蘇生時を含む) (件)

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	2	0
はい	6	0	5
いいえ	35	33	42
計	41	35	47

⑲緊急処置時

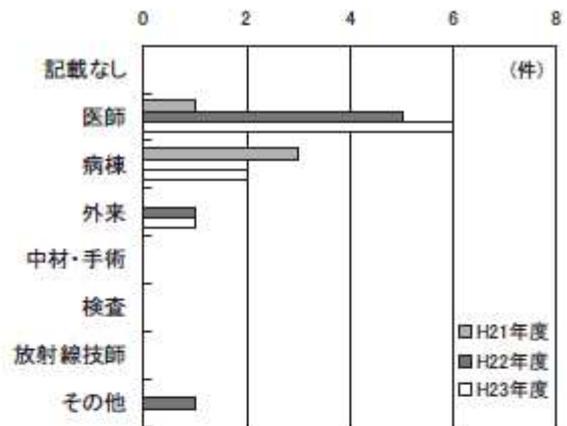


2) 皮膚・粘膜 (EpsysB)

①部門

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	0	0
医師	1	5	6
病棟	3	0	2
外来	0	1	1
中材・手術	0	0	0
検査	0	0	0
放射線技師	0	0	0
その他	0	1	0
計	4	7	9

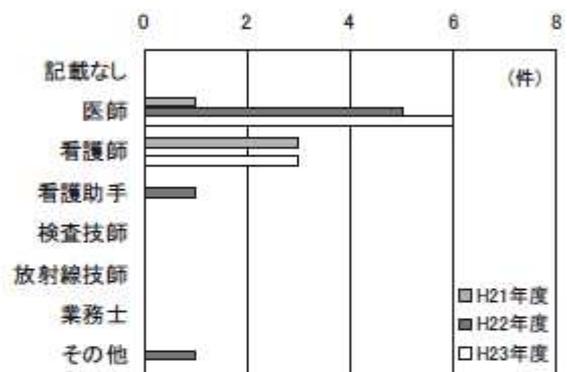
①部門



②職種

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	0	0
医師	1	5	6
看護師	3	0	3
看護助手	0	1	0
検査技師	0	0	0
放射線技師	0	0	0
業務士	0	0	0
その他	0	1	0
計	4	7	9

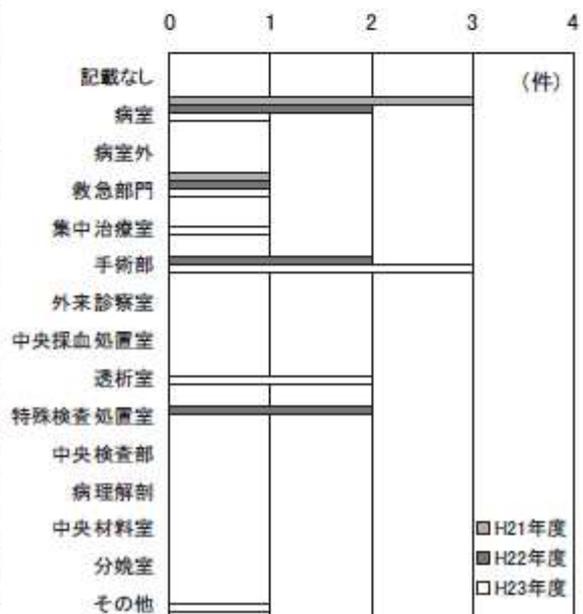
②職種



③発生場所

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
記載なし	0	0	0
病室	3	2	1
病室外	0	0	0
救急部門	1	1	1
集中治療室	0	0	1
手術部	0	2	3
外来診察室	0	0	0
中央採血処置室	0	0	0
透析室	0	0	2
特殊検査処置室	0	2	0
中央検査部	0	0	0
病理解剖	0	0	0
中央材料室	0	0	0
分娩室	0	0	0
その他	0	0	1
計	4	7	9

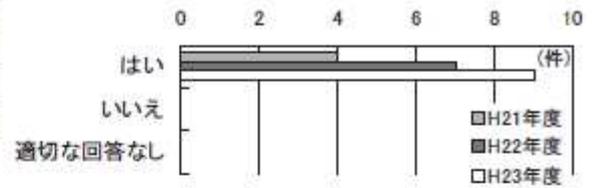
③発生場所



④患者の確定

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
はい	4	7	9
いいえ	0	0	0
適切な回答なし	0	0	0
計	4	7	9

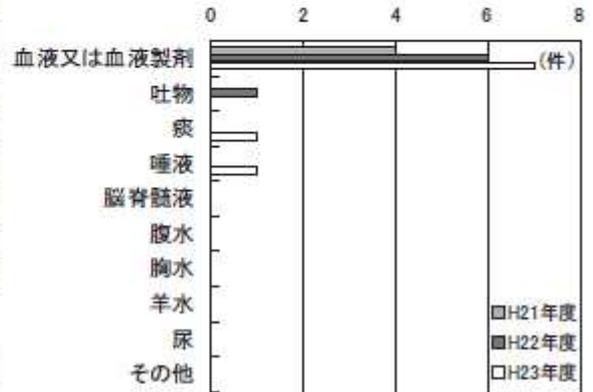
④患者の確定



⑤汚染した体液

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
血液又は血液製剤	4	6	7
吐物	0	1	0
痰	0	0	1
唾液	0	0	1
脳脊髄液	0	0	0
腹水	0	0	0
胸水	0	0	0
羊水	0	0	0
尿	0	0	0
その他	0	0	0
計	4	7	9

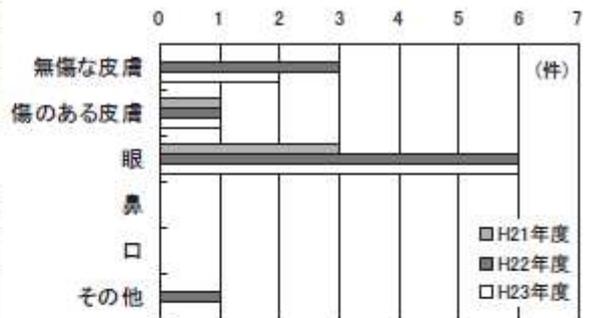
⑤汚染した体液



⑥汚染組織・状態

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
無傷な皮膚	0	3	2
傷のある皮膚	1	1	1
眼	3	6	6
鼻	0	0	0
口	0	0	0
その他	0	1	0
計	4	11	9

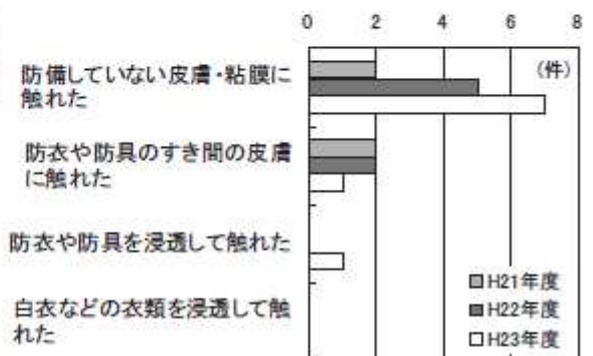
⑥汚染組織・状態



⑦汚染時の状況

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
防備していない皮膚・粘膜に触れた	2	5	7
防衣や防具のすき間の皮膚に触れた	2	2	1
防衣や防具を浸透して触れた	0	0	1
白衣などの衣類を浸透して触れた	0	0	0
計	4	7	9

⑦汚染時の状況



⑧汚染時の防衣・防具

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
手袋なし	1	0	2
一重の手袋	3	5	4
二重の手袋	0	1	0
ゴーグル	0	0	0
眼鏡	1	3	1
側面保護眼鏡	0	0	0
フェイスシールド	0	0	0
外科手術用マスク	1	3	4
眼保護付外科手術用マスク	0	0	0
外科手術用ガウン	0	2	1
プラスチックエプロン	1	0	3
検査・実験衣 布地	0	1	0
検査・実験衣 その他	0	0	0
その他	0	0	0
計	7	15	15

※重複回答

⑨汚染理由

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
患者から直接	3	4	2
検体容器から漏れて/こぼれて	0	0	2
検体容器が壊れて	0	0	0
IVチューブ/バッグ/ポンプから漏れて	0	0	0
破れた手袋/ガウン等を通して	0	0	0
栄養チューブ/その他のチューブが外れて/漏れて	0	0	3
その他の体液容器からこぼれて/漏れて(吸引ビン等)	0	2	0
汚染していた器材に触れて	1	0	1
汚染していた覆布/シーツ/ガウン等に触れて	0	0	0
不明	0	0	0
その他	0	1	1
計	4	7	9

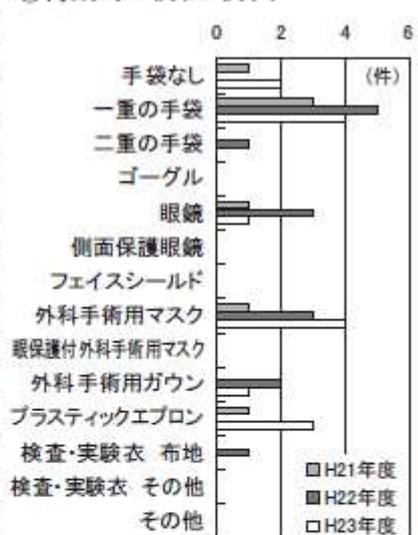
⑩汚染時間

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
5分未満	4	3	7
5～14分間	0	2	1
15分以上1時間未満	0	1	1
1時間以上	0	1	0
計	4	7	9

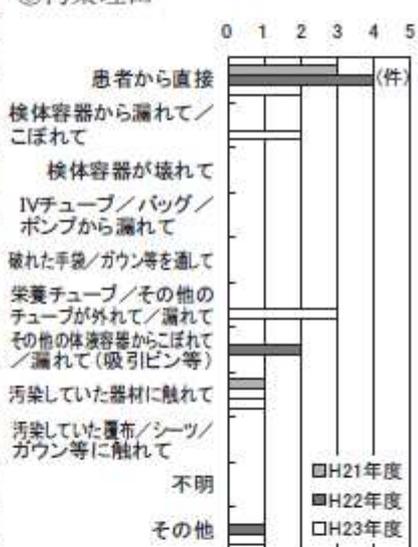
⑪接触した量

項目名	H21年度	H22年度	H23年度
少量(5cc未満)	4	7	9
中等量(5～50cc)	0	0	0
大量(50cc以上)	0	0	0
計	4	7	9

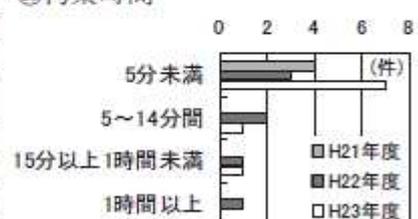
⑧汚染時の防衣・防具



⑨汚染理由



⑩汚染時間



⑪接触した量



業績

- 学会・研究会発表
- 座長
- 講演
- 論文
- 著書

学会・研究会発表

1. 新生児医療センターで発生した2例の新型インフルエンザアウトブレイクの調査報告
伊藤賀代子、高橋一嘉、山口育男、木下恵子、佐藤勝紀、佐藤眞由美、伊藤恵子
日本環境感染学会総会(横浜)2011.2.18
2. ICT 事務の活動報告
伊藤恵子、高橋一嘉、山口育男、木下恵子、佐藤勝紀、佐藤眞由美、伊藤賀代子
日本環境感染学会総会(横浜)2011.2.19

座長

1. 一般演題座長
高橋一嘉
中部地区中材業務研究会(名古屋)2011.2.3

講演

1. ICN が考えた中央材料室
高橋一嘉
ASP 感染対策セミナー(ジョンソン・エンド・ジョンソン)(静岡)2011.7.9
2. 内視鏡室における感染防止技術
高橋一嘉
愛知医科大学看護学部認定教育課程「感染管理」(愛知)2011.11.21

3. 部門別感染防止技術～ICU/CCU,救急/外来における感染防止対策～
高橋一嘉
愛知医科大学看護学部認定教育課程「感染管理」(愛知)2011.11.21
4. 家庭で行う感染防止対策
高橋一嘉
公開健康講座(愛知県看護協会)(豊橋)2011.11.26

論文

1. 緑膿菌における抗菌薬感受性の推移
佐藤勝紀、山口育男、木下恵子、高橋一嘉、伊藤賀代子、山本景三
日本環境感染学会誌 VOL.26, No.6, 392-400, 2011

著書

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)対策
高橋一嘉
疑問解決 現場で役立つ感染対策パーフェクトガイド/学研メディカル秀潤社
2. 小児病棟における感染対策の基本
高橋一嘉、附柴陽子
こどもケア 12・1月号/日総研出版

